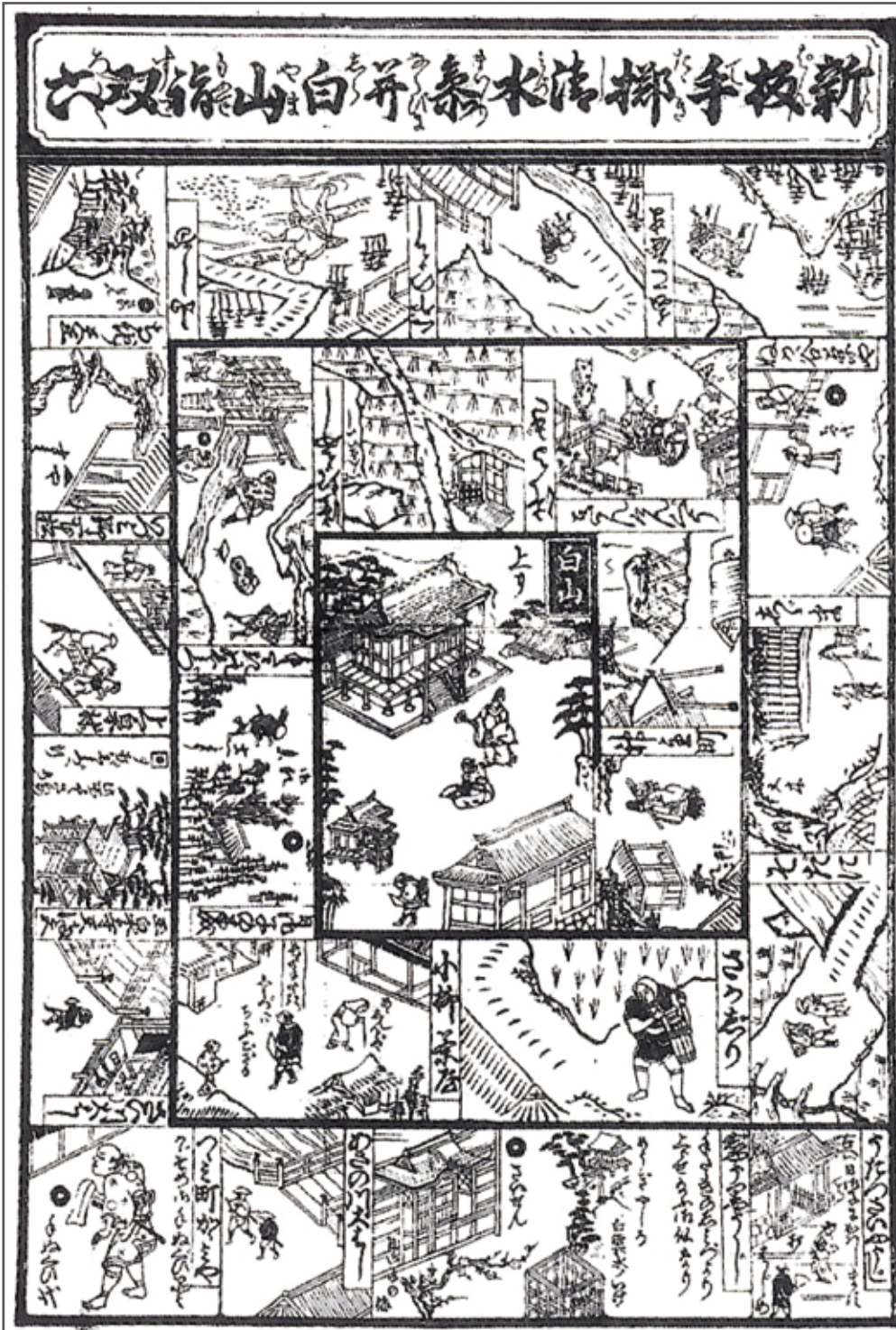


## “白山詣双六”とは

「新版手擲清水参並白山詣双六（手たたき清水まいりならびに白山もうですごろく）」（実物は石川県立歴史博物館所蔵）という江戸末期頃に刷られた絵双六のことです。

双六は、西養寺を振り出しに、鶴来の日御子（ひのみこ）の“手たたき清水”を参拝し、白山宮（白山ひめ神社）を上りとするものです。西養寺の井戸の水は、白山に通じる霊水の信仰があり、藩政期、井戸の縁起を説明する双六が大いに流行ったといえます。

江戸時代、金沢より遥か離れた奥宮の白山へ登るのは日帰りが可能とはいえ難行でした。人々はこの双六で白山参詣の気分を味わったのかもしれませんが。



右：新版手擲清水参並白山詣双六  
（石川県立歴史博物館所蔵）